

2 指導の重点

(1) 各教科等

ア 各教科

- ① 「具体物を提示してひきつける」ことや「既習事項の振り返り」等を通じて、生徒が「学ぶことに興味や関心をもつ」導入の工夫を行うとともに、単元や題材など内容のまとまりの中で主体的・対話的で深い学びを実現する。
- ② 国語科をはじめ各教科等において、記録や要約、発表等の言語活動の充実を図り、生徒の思考力、判断力、表現力等を育む。
- ③ 数学科の習熟度別指導や外国語科の少人数指導による個に応じた指導を充実し、生徒一人ひとりの関心・意欲や定着度の状況に応じた指導を行う。
- ④ 外国語科を中心として、各教科等で教科用図書に掲載されている二次元コードの授業支援ツールやドリル型学習コンテンツを日常的に活用した指導を、1人1台の学習用端末を用いて行う。
- ⑤ 非常時も含めて授業やホームルーム等で1人1台の学習用端末の活用をさらに進めるために、日頃から効果的な使用方法を創意工夫する。
- ⑥ 八王子市学力定着度調査、はちおうじっ子ミニマム等の結果を分析し、基礎的・基本的な問題の定着を強化する授業改善と、学習サポーターと連携した支援を行い、学力向上をめざす。
- ⑦ 年間指導計画に基づいた評価計画を基に、生徒に評価方法を年度当初に示すことで、見通しを立てたり、振り返ったりする学習を、自主的・自発的に取り組めるようにする。
- ⑧ 国、東京都児童・生徒体力・運動能力調査の結果分析から、保健体育科の授業を中心に生徒の体力をバランスよく向上させられるよう指導等の工夫改善に努め、補強運動の取組を実践していく。

イ 総合的な学習の時間

- ① 八王子の郷土学習として第1学年「魅力を知る」、第2学年「魅力を伝える」、第3学年「地域活性化」をテーマとし、調査・発表を通して地域の一員としての実感がもてるような授業を展開する。
- ② 地域との交流やボランティア活動、探求的な活動等を通して「生きる力」を育む指導の充実を図り、生徒が主体的に学習する態度や思考力、判断力、表現力等を育てる。
- ③ 地域との連携したボランティア活動や防災教育を通して社会貢献、SDG sの意識を育成する。
- ④ 外部講師として、第3学年に産婦人科医を招き、命の尊さを学習する。第2学年には、助産師及び妊婦や乳幼児、幼児を招き、命の学習を行う。

ウ 特別活動

- ① 生徒自らが価値あることを追求し、「生徒が主役」という意識のもと、自己実現を図っていく場面を設定する。
- ② 学級活動を基盤として、学校行事、学年行事、生徒会活動、部活動など、生徒一人ひとりの能力や個性を発揮できる場を設定し、いきいきと活動ができる内容の充実を図る。特に、集団宿泊的行事において、実行委員会を中心とした生徒主体の取組を進める。
- ③ 「師弟協働」を重視し、挨拶や清掃活動等を教師が率先して行う姿を示すことで、生徒の勤労観や社会性を育む。

(2) 特別の教科 道徳を要とする道徳教育

ア 全教育活動を通して、道徳教育の全体計画および別葉を基に計画的に道徳教育を行う。また、人権尊重の精神を基調とし、特に生命を尊重し他者の痛みが分かる心を育て、豊かな情操を育成する。

イ 道徳授業地区公開講座において、地域・保護者向けに行う模擬授業等、意見交流を活発にする工夫を行う。また、生徒のよさや課題等を共有し、連携した道徳教育を推進する。

ウ 特別の教科 道徳では「思いやり、感謝」「生命の尊さ」と「遵法精神、公德心」を重点項目とし「考え、議論する道徳」を展開しながら「問題解決的な学習」を適切に取り入れる。

エ 各教科等の命に関連する授業では、命を大切にする態度を育む。

(3) キャリア教育

ア 「はちおうじっ子キャリア・パスポート」を活用し、生徒が自分自身の成長に気付く一助とし自己理解を深め、教師が生徒理解を深めるために継続的に活用する。

イ めざす生徒像を地域や家庭・保護者と共有し、個に応じた指導の充実を図る。

ウ 学習と生活とのつながりを意識して、自身の社会的、職業的自立に向けて取り組めるよう、各教科等で連携を図りながら、全教育活動を通して必要な能力や態度を育てる。

エ キャリア教育の視点で職業（職場）や福祉についての学習に取り組むことで、社会的・職業的自立のための能力を育む。